

【 第44回熊本大学定例学長記者懇談会 】

日 時：令和7年4月9日（水）13：00～14：00（予定）

場 所：本部棟1階 大会議室

本学出席者：熊本大学長

小川 久雄

理事（研究・グローバル戦略担当）

大谷 順

理事（広報・ブランディング・行政連携担当）

宮尾 千加子

内 容：

1. 熊本大学における国際教育活動（資料1）

学長特別補佐 大学院人文社会科学研究部 講師 シムズ・ランダー・ブライアント

2. 今後の新規感染症の流行に備えた検査体制の確立について（資料2）

〈熊本大学クラウドファンディング〉

大学院生命科学研究部附属生体情報研究センター 教授 山本 雅大

3. 工学部半導体デバイス工学課程の取り組みについて（資料3）

学長特別補佐 半導体・デジタル研究教育機構 教授 百瀬 健

4. その他（資料4）

熊本大学広報ウェブサイト「Kumadai Now（熊大なう。）」リニューアル

熊本大学における国際教育活動

Lander Sims

人文社会科学部（講師）
学長特別補佐（グローバル教育）

熊本大学

ICT活用による国際教育の研究
英語による教養教育
留学生派遣プログラム
高大連携

北アリゾナ大学

人類学及び日本語学（学士）

ジョンズ・ホプキンス大学

教育技術（修士）

JETプログラム

2008年に語学指導等を行う外国青年招致事業参加、英語教育・国際教育活動

学生が**主体的**に国際教育に自ら興味を持ち、つながりを感じられるようにするには、

環境づくり

が何より重要



英語による教養教育

- ・ 学習内容を英語で勉強する
- ・ 留学生と一緒に
- ・ 熊大での「留学」体験

例 マンスフィールド財団 連携授業

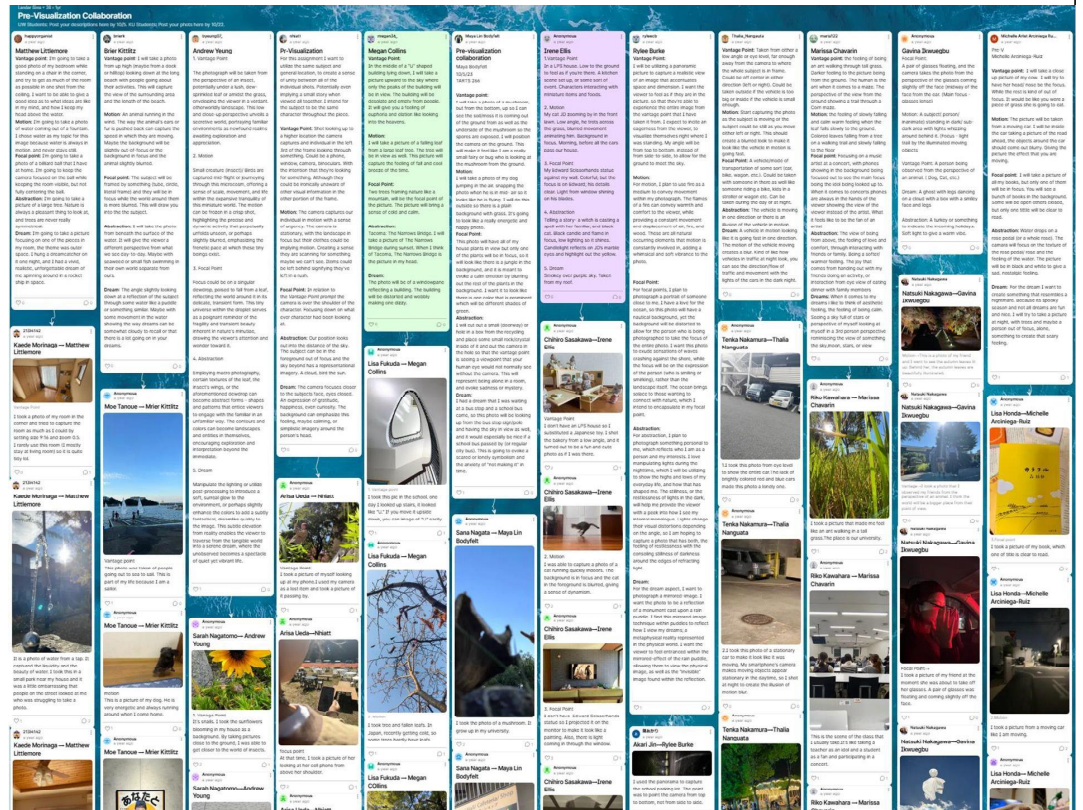
政府、研究、経済等に関する
米国からの専門家との毎週の
講義とディスカッション



COL教育

とは、オンラインで
海外の大学と連携し、
学生同士が協働して
プロジェクトに取り
組む国際教育手法

学生は、英語は試験
対象というよりも、
国際的なコミュニ
ケーションのために
世界中で使われる**主
要なツール**であるこ
とを直接体験する



COILの延長としての 海外研修プログラム

一つの研究テーマとして、
COILプロジェクトと並行
して現場研修プログラムを
組み込むことの有効性を分
析している。

融合したアプローチにより、
より深い理解と長期的な影
響が保証されると考える。





熊本大学クラウドファンディング

医療人材育成と検査体制の強化を。 【熊本の未来を築く】感染症対策へ！

支援募集期間： 令和7年4月1日～5月30日

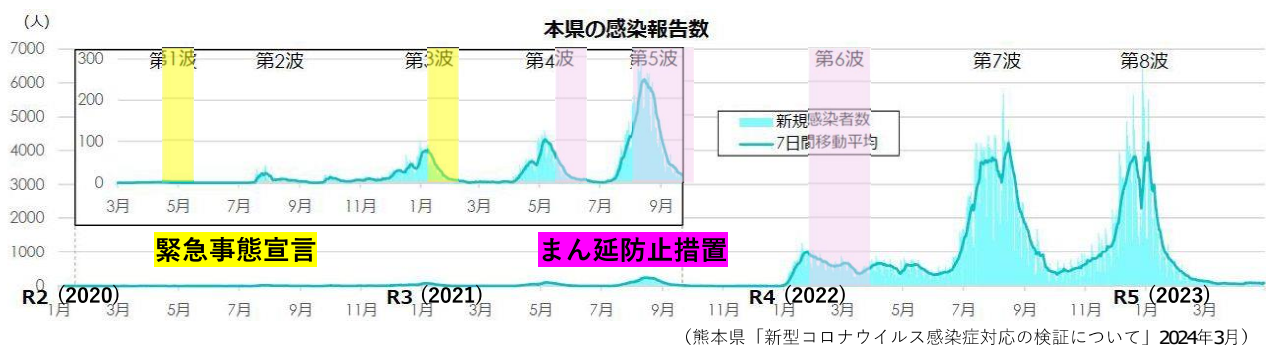
目標金額： 270万円（All or nothing型）

熊本大学 生体情報研究センター
山本 雅大



クラウドファンディングの背景

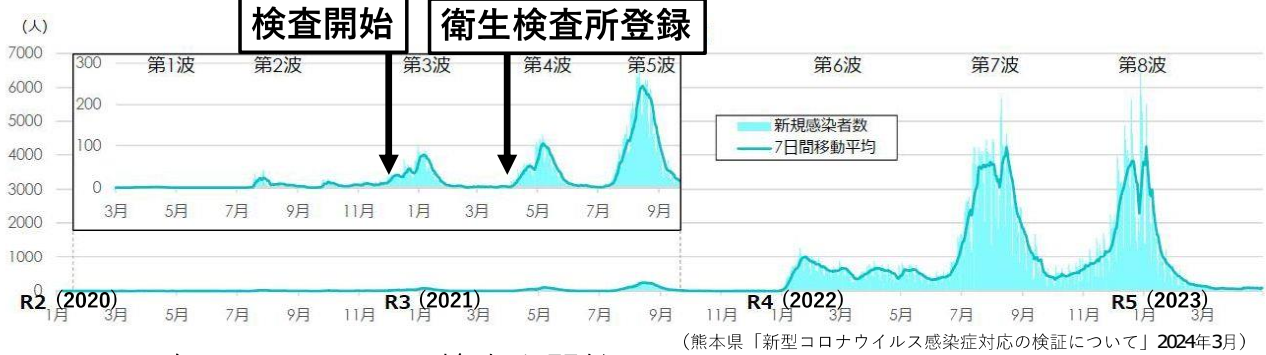
新型コロナウイルス感染者数の推移（熊本県）



- ・ 感染症による直接的な**健康被害**
- ・ **緊急事態宣言**・**まん延防止措置**による行動制限、新しい生活様式の導入
- ・ 医療・福祉の逼迫

など、
皆がそれぞれこの新規感染症に悩まされた

コロナ下の生体情報研究センターの取り組み



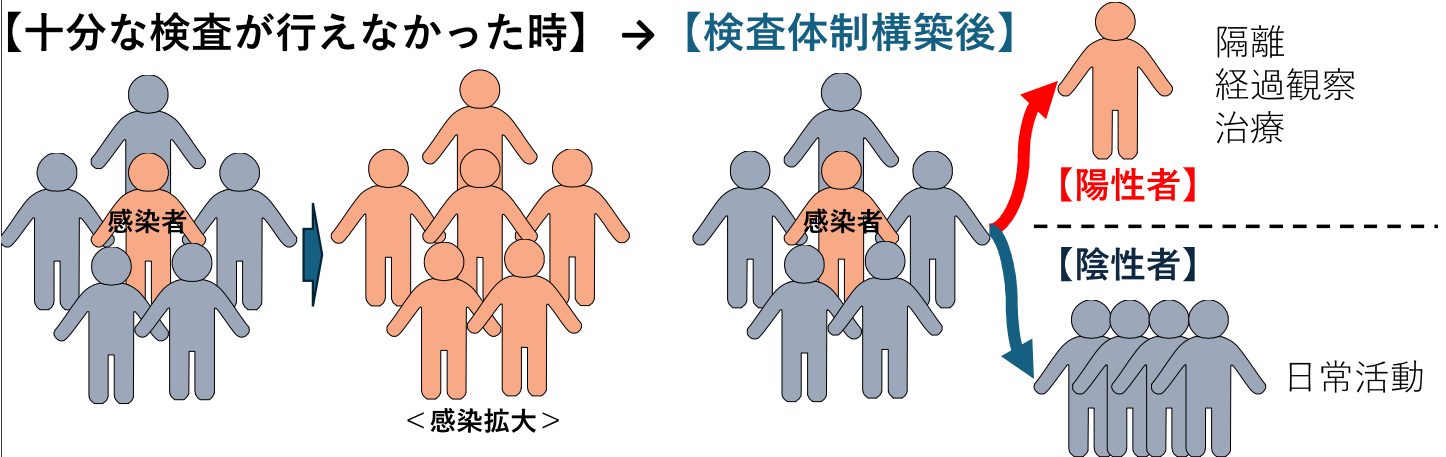
- 2020年12月より、PCR検査を開始
- 2021年4月より、臨時衛生検査所登録

**PCR検査
18,931件実施**

※新型コロナウイルスPCR実施件数（2020年12月～2024年3月）

- ・ 行政検査14,768件（熊本県2,642件、熊本市12,126件）
- ・ 教育機関からの依頼検査4,163件（熊本大学3,409件、学外754件）

新型コロナPCR検査の役割



感染拡大 → 強い行動制限
治療の遅れ → 重症化、医療・福祉の逼迫

適切な隔離による、感染拡大予防
陽性者に対する、適切な医療
陰性者は、仕事や学業などの活動が可能

ポストコロナのセンターの取り組み

- 2023年5月 5類感染症に移行
- 2024年3月 臨時検査所廃止
新型コロナウイルスPCR検査終了
- 2024年5月 熊本県と検査措置協定を締結

生体情報研究センターは、PCR検査の経験を活かして、
今後も熊本県民が安心して日常生活が送れるように、

新規感染症に備えた検査体制の構築・維持
を行うこととした

しかしながら、検査収入もない今、**資金難に直面**

感染症法に基づく検査措置協定について

検査措置協定の主な項目

(1)検査(核酸検出検査)の実施能力

熊本県からの要請に基づき、新興感染症等に係る検査を提供する体制を確保する。

(2)個人防護具の備蓄

新興感染症等に係る検査を提供する体制の確保に必要な措置を講ずるため、個人防護具を備蓄する。

検査措置協定締結機関一覧

熊本県と検査措置協定を締結した検査機関を掲載しています。

検査措置協定締結機関(五十音順)

熊本大学(生命科学研究所附属生体情報研究センター)

熊本保健科学大学 衛生検査所

株式会社CIS 熊本中央研究所

熊本県HP

熊本県民の命と暮らしを守るための3つの柱

1

検査機器の維持 と消耗品の備蓄

- 検査に係る検査機器(PCR装置や次世代シーケンサーなど)の維持
- 消耗品(PCR検査用試薬や検査用プレートなど)の備蓄

2

研修・教育 研究活動

- 新規感染症に備えるための職員の研修
- 次世代の検査の担い手を育成するための高校生、大学生、大学院生の教育
- 感染症の研究

3

広報活動

- 本センターの活動を広く周知するための広報(高校生への出張講義、地域社会住民への市民公開講座など)

リアルタイムPCR装置
Applied Biosystems社製
StepOne



次世代シーケンサー



クラウドファンディングの目的

熊本県民の命と暮らしを守るための3つの柱

1

検査機器の維持と消耗品の備蓄

- 検査に係る検査機器（PCR装置や次世代シーケンサーなど）の維持
- 消耗品（PCR検査用試薬や検査用プレートなど）の備蓄

2

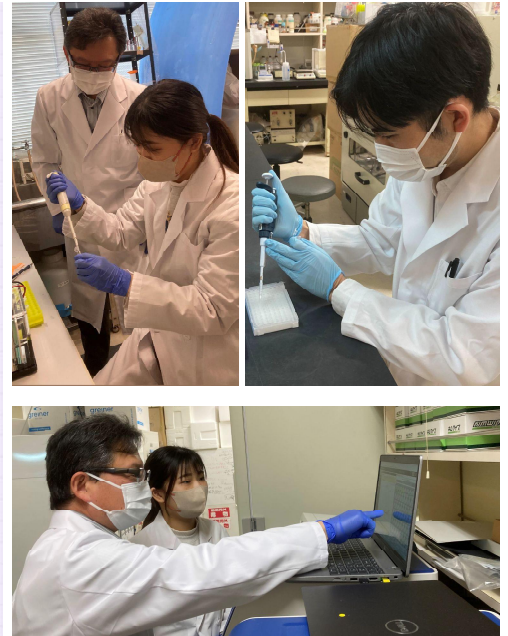
研修・教育研究活動

- 新規感染症に備えるための職員の研修
- 次世代の検査の担い手を育成するための高校生、大学生、大学院生の教育
- 感染症の研究

3

広報活動

- 本センターの活動を広く周知するための広報（高校生への出張講義、地域社会住民への市民公開講座など）



高校生を対象とした「次世代への架け橋授業」

熊本県民の命と暮らしを守るための3つの柱

1

検査機器の維持と消耗品の備蓄

- 検査に係る検査機器（PCR装置や次世代シーケンサーなど）の維持
- 消耗品（PCR検査用試薬や検査用プレートなど）の備蓄

2

研修・教育研究活動

- 新規感染症に備えるための職員の研修
- 次世代の検査の担い手を育成するための高校生、大学生、大学院生の教育
- 感染症の研究

3

広報活動

- 本センターの活動を広く周知するための広報（高校生への出張講義、地域社会住民への市民公開講座など）



鹿本高校、玉名高校で実施



改修終了後、センターでの研究・検査体験なども

熊大まちなかキャンパストークイベント

感染症対策で、熊本の未来を守る ～医療人材の育成と検査体制の強化を～



熊大まちなかキャンパストークイベント

熊本大学とニューコ・ワン株式会社※との共同企画

※ニューコ・ワン株式会社は、熊本県内16店舗のTSUTAYAの運営をしている会社です。

これまで経験したことのない新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の波が迫る中、逼迫した熊本県下の検査体制を助けるべく立ち上がった大学の教職員たちの苦労や戦いの日々、実際に行われてきたPCR検査の仕組みをご紹介します。さらに、アフターコロナの時代を迎え、コロナ禍で得た経験を活かして行政と連携して次の感染症の到来への準備を進めており、他では聞けないその取り組みについてをご紹介します。

令和7年 **4月27日** (日)

時間 14:00～15:00

対象者 どなたでも

参加費 無料

定員 先着30名(要事前申込)

会場 蔦屋書店熊本三年坂
地下1階イベントスペース
(熊本市中央区安政町1-2)

申込 QRコードまたはお電話で
お申し込みください。



申込み・問い合わせ先

熊本大学総務部総務課広報戦略室

〒860-8555

熊本大学
熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
TEL 096-342-3119



支援募集期間： 令和7年4月1日～5月30日
目標金額： 270万円 (All or nothing型)

お問い合わせはこちら

☎ 096-373-5451

✉ seitai@kumamoto-u.ac.jp

詳細はこちら

生体情報研究センター レディーフォー 🔍

<https://readyfor.jp/projects/cbls-seitai>



令和7年4月9日開催

熊本大学定例学長記者懇談会 資料3

令和7年度熊本大学一般選抜志願状況

- 募集人員・志願者数は、前期日程と後期日程分のものです。
- 教育学部(前期)の各コース・専攻、工学部(前期)の各学科・課程の志願者数は、第1志望の志願者数です。

最終確定

学部・学科等		前期日程						後期日程					
		募集人員	志願者数	志願倍率	前年度募集人員	前年度志願者数	前年度志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	前年度募集人員	前年度志願者数	前年度志願倍率
文学部	総合人間学科	38	96	2.5	38	63	1.7	8	95	11.9	8	84	10.5
	歴史学科	24	58	2.4	24	30	1.3	7	75	10.7	7	47	6.7
	文学科	35	90	2.6	35	86	2.5	5	74	14.8	5	37	7.4
	コミュニケーション情報学科	20	36	1.8	20	37	1.9	—	—	—	—	—	—
	文学部計	117	280	2.4	117	216	1.8	20	244	12.2	20	168	8.4
教育学部	学校教育教員養成課程	初等・中等教育コース	小学校専攻	80	173	2.2	80	146	1.8	—	—		
			国語専攻	7	25	3.6	7	11	1.6				
			社会専攻	7	35	5.0	7	12	1.7				
			数学専攻	10	25	2.5	10	23	2.3				
			理科専攻	5	8	1.6	5	12	2.4				
			英語専攻	6	17	2.8	6	9	1.5				
			実技系専攻	10	24	2.4	10	20	2.0				
		音楽											
		美術											
		保健体育											
	技術												
	家庭												
	コース計	125	307	2.5	125	233	1.9						
特別支援教育コース	14	34	2.4	14	21	1.5							
養護教育コース	22	58	2.6	22	54	2.5							
教育学部計	161	399	2.5	161	308	1.9							
法学部	法学科	145	337	2.3	145	248	1.7	25	246	9.8	25	181	7.2
理学部	理学科	140	293	2.1	140	317	2.3	40	430	10.8	40	501	12.5
医学部	医学科	86	467	5.4	87	433	5.0	—	—				
	保健学科	看護学専攻	50	191	3.8	50	131			2.6			
		放射線技術科学専攻	28	102	3.6	28	73			2.6			
		検査技術科学専攻	28	82	2.9	28	100			3.6			
		保健学科計	106	375	3.5	106	304			2.9			
医学部計	192	842	4.4	193	737	3.8							
薬学部	薬学科	40	134	3.4	40	205	5.1	—	—				
	創薬・生命薬科学科	25	57	2.3	25	67	2.7						
	薬学部計	65	191	2.9	65	272	4.2						
工学部	土木建築学科	76	203	2.7	76	136	1.8	11	55	5.0	11	61	5.5
	機械数理工学科	70	166	2.4	70	129	1.8	10	94	9.4	10	57	5.7
	情報電気工学科	75	174	2.3	75	161	2.1	12	121	10.1	12	79	6.6
	材料・応用化学科	78	212	2.7	78	158	2.0	12	87	7.3	12	88	7.3
	半導体デバイス工学課程	15	70	4.7	15	33	2.2	—	—	—	—	—	—
	工学部計	314	825	2.6	314	617	2.0	45	357	7.9	45	285	6.3
情報融合学環	45	175	3.9	45	171	3.8	—	—	—	—	—	—	
合計		1,179	3,342	2.8	1,180	2,886	2.4	130	1,277	9.8	130	1,135	8.7



半導体デバイス工学課程の取り組み

【課程】

- 半導体デバイス工学課程 志願倍率 24年度2.2倍, 25年度4.7倍
- 熊大半導体ポータル(<https://semicon.kumamoto-u.ac.jp/p/index.html>)を開設、必要情報へナビゲート
- 半導体デバイス工学課程を刷新し、インタビュー記事などを通じて学生生活のイメージ喚起
- 熊本県東京大学連携シンポジウム(<https://nanohub.t.u-tokyo.ac.jp/symposium/>)中高高専での出張講義、ラボインターンシップによる熊本県内での就学・就業イメージの想起
- 半導体デバイス工学課程1期生(24年度編入生)卒業研究開始, 1年後に卒業

【大学院】

- 半導体・情報数理専攻の設置、今月1期生が入学(博士前期 111名 後期8名)

1



半導体デバイス工学課程の取り組み

【東大関係】

- 東大から複数の教員が赴任
- 東大教員による遠隔講義、東大本郷キャンパスでの半導体実習
- 百瀬教授が今月より学長特別補佐として半導体関係の研究教育機能のさらなる向上に着手
- 笠間特任教授が東大でのクリーンルーム運営ノウハウを提供
- 連携協定に基づき、黒髪南キャンパス内に設置された東京大学ナノシステム集積センター分室に教員1名技術職員1名が常駐
- 第5回東大分室セミナー(女子中高生向け半導体講座)を開催

2

令和7年4月9日開催

熊本大学定例学長記者懇談会 資料4



令和7年4月2日

報道機関各位

熊本大学

熊本大学広報ウェブサイト「Kumadai Now (熊大なう。)」
リニューアルについて

熊本大学では、Web マガジンをはじめ、YouTube チャンネル、広報誌、学外での企画展等、さまざまな形で本学の情報を発信しております。このたび、これらの情報を一元的に発信する広報情報集約サイトとして、これまで Web マガジンとして運用していた「Kumadai Now (熊大なう。)」のウェブサイトをリニューアルいたしました。

本サイトは、図1のように、ユーザーが調べたいキーワードを入力するだけで、4つのコンテンツ内の情報を横断的に検索し、関連する記事等を表示することができる検索機能の特徴としており、本学のことについて知りたい方が、迅速かつ容易に本学の情報を取得できることを目的としております。

今回のリニューアルを通じて、本学の最新情報や魅力をより多くの方々にお届けできるよう努めてまいります。ぜひ新しいウェブサイトをご覧ください、ご活用ください。

あわせて、広く一般の方へお知らせいたしますよう、よろしく願いいたします。
(取材をご希望の際は、以下の問い合わせ先にご連絡をお願いいたします。)

なお、これまで「Kumadai Now (熊大なう。)」という名称で運用しておりました Web マガジンについては、「熊大タイムズ」という名称に変え、新たな「Kumadai Now (熊大なう。)」ウェブサイトの中で、今後も引き続き運用してまいります。

記



【URL】 <https://external.jimu.kumamoto-u.ac.jp/kumadainow/>

(図1)



【お問い合わせ先】
熊本大学総務部総務課広報戦略室
TEL : 096-342-3119

熊大まちなかキャンパストークイベント

令和7年4月9日開催

熊本大学定例学長記者懇談会 報告1

感染症対策で、熊本の未来を守る ～医療人材の育成と検査体制の強化を～



これまで経験したことのない新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の波が迫る中、逼迫した熊本県下の検査体制を助けるべく立ち上がった大学の教職員たちの苦労や戦いの日々、実際に行われてきたPCR検査の仕組みをご紹介します。さらに、アフターコロナの時代を迎え、コロナ禍で得た経験を活かして行政と連携して次の感染症の到来への準備を進めており、他では聞けないその取り組みについてをご紹介します。

令和7年4月27日(日)

時間 14:00～15:00

対象者 どなたでも

参加費 無料

定員 先着30名(要事前申込)

会場 蔦屋書店熊本三年坂
地下1階イベントスペース
(熊本市中央区安政町1-2)

申込 QRコードまたはお電話で
お申し込みください。



講師

山本 雅大

熊本大学大学院生命科学研究部附属
生体情報研究センター センター長

研究内容

がん生物学の検査や治療への応用が専門で、生体情報研究センターを通して新規感染症対策や検査技術の教育・研究にも取り組んでいます。

大坪 和明

熊本大学大学院生命科学研究部附属
生体情報研究センター 教授

研究内容

第3の生命鎖「糖鎖」の機能やその異常による疾患メカニズムの解明、検査への応用を研究しています。

申込み・問い合わせ先

熊本大学総務部総務課広報戦略室



〒860-8555
熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
TEL 096-342-3119

クラウドファンディングに挑戦!

目標金額: 270万円

募集期間: 令和7年4月1日(火)～令和7年5月30日(金)

生体情報研究センター レディーフォー



<https://readyfor.jp/projects/cbls-seitai>